

令和3年竹田市教育委員会第7回定例会 会議録

- 1 開催日時 令和3年7月5日（月）午後3時から
- 2 開催場所 竹田市役所2階庁議室
- 3 出席委員
教育長 志賀 哲哉
1 番委員 賀籠六尚樹
2 番委員 甲高 幸一
3 番委員（教育長職務代理者） 佐藤 恵
4 番委員 吉野 聖子
- 4 欠席委員 なし
- 5 本定例会に説明のため出席した者の職・氏名
教育総務課長 後藤 惟稔
学校教育課長 渡邊 早苗
生涯学習課長 工藤 直樹
まちづくり文化財課長 古田 卓
歴史文化館長 佐藤 晃洋
竹田中央学校給食共同調理場長 後藤 一郎
事務局員 教育総務課参事 大塚 聡子
- 6 議事日程
(1) 会議録の承認 第6回定例会会議録
(2) 教育長報告
(3) 審議事項
なし
(4) 報告事項
報告第 9号 令和3年度竹田市教育費予算（6月補正）について
(5) 審査事項
なし
(6) 協議事項
なし
(7) 連絡事項
(1) 7月幼・小・中行事予定表
(2) 7月教育委員会関係日程（予定）
(3) 今後の主な予定
(8) その他 各課から
(9) 教育委員からの提案・意見
- 7 議事次第 別紙のとおり

〔開会時刻:午後3時〕

- 後藤教育総務課長 それでは委員の出席状況について報告します。教育長及び委員4名全員、欠席委員は0名、傍聴者0名。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条に基づき本委員会が成立していることを報告します。
- 志賀教育長 第7回教育委員会定例会を始めます。第6回定例会の会議録をすでにお配りしておりますが、質疑修正等ありませんか。よろしいでしょうか。
- (「はい。」の声。)
- 志賀教育長 はい。では会議録を承認願えますか。
- (「はい。」の声。)
- 志賀教育長 それでは、署名をお願いします。
次に、教育長報告をお願いします。教育総務課長。
- 後藤教育総務課長 教育長報告でございます。
6月8日竹田市教育委員会第6回定例会、11日ドリームゲームス in おぎ実行委員会、14日竹田市議会第2回定例会(代表質問・一般質問)、ヒューライツフォーラム実行委員会、15日・16日竹田市議会第2回定例会(一般質問)、17日第5回校長・所長会議、18日竹田市議会第2回定例会(予算特別委員会)、久住地域体育協会競技部理事会、21日竹田市教育委員会第2回臨時会・第1回竹田市総合教育会議、22日行革推進本部会議、24日竹田市議会第2回定例会(社会文教常任委員会)、定例課長会議、28日竹田市議会第2回定例会(本会議)、今後の学校のあり方説明会(直入中PTA役員)、29日今後の学校のあり方説明会(菅生小PTA役員)30日高齢者大学(竹田学級)開校式、7月2日声楽コンクール運営諮問委員会、令和3年度嚶鳴協議会教育長情報交換会(オンライン)、今後の学校のあり方説明会(城原小PTA役員)、本日5日竹田市教育委員会第7回定例会。以上です。
- 志賀教育長 教育長報告に対する質疑等ありませんか。賀籠六委員。
- 賀籠六委員 今後の学校のあり方の説明会を3校行っているようですが、その時の内容はどのような感じだったのか教えてください。
- 志賀教育長 はい。教育総務課長。
- 後藤教育総務課長 第1回の総合教育会議が21日にありまして、そこで方向性ということの案が承認されました。それを受けて、それぞれの学校と日程の調整をして、そのスタートが28日であります。最初の学校は、PTA役員に出席をしていただき、また校長、教頭も出席の中での説明会で、一応の学校統合の目標年度そして統合の方法等の案を説明いたしました。統合における基本の考え方であったり留意点、そういった部分で、学校のあり方のアンケートの結果、そういったものを踏まえながら説明をいたしました。役員の方については、人数が少なくなったことによって制限がかかると、そういったところで統合はやむなしかなという

意見、そしてまた別の役員の方についても、統合はやむなしと思うけど、やはり自分としては複雑な思いであるというところで、子どもがいる間はということの意見もありまして、立場上の難しさというところを吐露しておりました。別の学校でも役員の方が出席をされました。今学年で1人であるというところ、そこで非常に子どもを見ていると辛いんだと、厳しいんだというところを切実に言っておりました。1人であるというところの、友達もいない姿を見て、そこでいろいろ決めごとができなかったり、児童クラブの中、放課後クラブに同級生が居ないので、行きたがらないとかいうところの辛さを切実な思いを伝えてくれました。ただ、その学校は縦のつながりが強いので、そこには救われているというところ。それと、他の役員の方については、統合は仕方ないのではないかと。先ほど言いましたとおり、子どもたちがいる間は何とか存続という思いもあるし、また、先ほどの子どもの思いも分かると、そして、卒業生としては、やはり学校が無くなるのは寂しいという素直な意見も聞くことが出来ました。さらに別の学校は、PTA 役員と校長、教頭が出席でありました。概ね統合については、賛成、反対ではないというかたちで、反対ではないと。ただ、地域とのつながりがあるんだというところと、何で統合先が決まっているんだというところの話をされました。これは、教育委員会としては方針を案としてだしているけれども、皆さんと話をしていくんだというところを説明させていただきました。思いを持った意見もありましたけれども、今3つの学校を回ってPTAの役員さんに話をさせていただいておりますけれども、この次の段階として、保護者の皆さんが参加できるような形の中で、PTAの役員の方が、こういう話がありました、皆さんどうですかという意見を、教育委員会無しのところを話を素直な気持ちを聞いてほしいということをお願いしました。ただ、いやあもうそう言わずに、もう全員集まったときに教育委員会来てくれよというところがあれば、行きますよというところの説明をさせていただきました。早速、2回目のスケジュールがもう決まったところもありますし、次回行くところ、初めていくところについては、最初から保護者全員というところもありますので、そこは丁寧に説明をして、回数は重なるかもしれませんが、その竹田市の長期計画に基づいた学校の配置の在り方というもの、教育環境の整備、子どもたちの集団的な適正な規模の中での子どもたちの成長というところをしっかりと伝えていければなというふうに感じたところでございます。以上です。

志賀教育長

賀籠六委員、よろしいでしょうか。

賀籠六委員

はい。新聞報道が先に出た感があつて、かなり周りの方は行政が一方的に進めるようなイメージを持たれてる方が多かったです。今話を聞きますと、そのPTAの役員の方たちは説明を聞いてある程度納得していただけたのかなというふうに思います。

志賀教育長

はい。では今の件、よろしいでしょうか。はい、吉野委員。

吉野委員

この教育長報告のところで質問すべきかわからないですが、まずPTA役員の方に説明をした次の段階で、保護者全体に対しての説明会を予定されているということですが、その場に行くと、将来的にこれはどうなりますかっていう具体的な質問が出るんじゃないかと予想されるんです。

例えば、スクールバスはどうなりますかとか、制服はどうなりますかとか、そういうことは、決定ではないにしろ何か案を提示する予定ですか。

志賀教育長

はい。教育総務課長。

後藤教育総務課長

今回、まずは学校の配置というところの説明で、まず入りたいと思っています。そこで統合という話の内容で、たぶん行ったり来たりすると思うんですけど、その中で、今回は、通学方法については説明できるんですかという質問がありました。ただ、これについては、具体的にこうだということは、まだはっきりと言えなくて、当然、保護者の方が直接学校に送ってくれということは、絶対そういうことはないので、スクールバスを含めた交通手段、通学手段というのは、検討しなくてはならないと。総合教育会議の中でと思いますが、市長が言った中で、交通担当は企画情報課になりますので、交通の中でスクールバスというところと、路線バス、コミュニティバスの利用といったところも考えなくてはならないので、そういう関係課との話もしないといけないから、決定とした答えをするということではできないので、そこで話を一回もらって、そういうところを検討していくんだよというような説明になるかと思います。それと制服はとか、そういうところの質問も出るかと思いますが、今回、対等ということではなくて編入という形で提案をさせていただいております。方針案を。対等であれば当然、校章や制服であったり、校歌であったり、そういった議論が必要になりますが、編入という形をとっていきたいので、そこはまた話が出れば、丁寧に説明をさせていただければなどと思っていますし、その統合の方法についても、質問が出るとは思いますし、中学校の統合の在り方についてなど、そういう課題を丁寧に説明させていただければなどと思っています。ですから説明会については、1回、2回とかで終わるものではないとは思っています。

志賀教育長

よろしいでしょうか。その他ございませんか。甲高委員。

甲高委員

一番大変な役をさせていただいて大変助かっていますが、いろんな意見がこれからも出てくるとは思います。その中で、この前ちょっと話があったかと思いますが、もし他に対象校ではない学校からそういう意見が出た場合、市としてどういうふうに対応していくのかお聞きしておきたいです。

志賀教育長

教育総務課長。

後藤教育総務課長

今回、対象でない学校の保護者や地域の方から、なぜしないのかという声もやっぱり上がってきます。今回のところについては、小学校は将来20人前後、若しくは20人以下のところを対象としているというところ。アンケートを令和2年にその対象校にしているというところ。中学校についても、中学校を早く統合してくれないかという地域を中心としたところでの、今回の案ということにしました。平成30年のアンケートを実施したときは、市の全体の小学校中学校のアンケートをしましたが、その中で統合を望むのではなくて、存続を望むというところが多かったところについてと、そしてまた20人前後にならないというところは、していないんですが、当然、長期総合計画の中で、地域の方々また保護者の方々の、そういう声を丁寧に拝聴しながら再編を決めてい

くという文言がありますので、小学校については、基本、地域のコミュニティだから存続をするけれども、存続が厳しくなったとき、困難であるという声が出れば、そこは再編を考えていくというふうに書いておりますので、そういう声が出てくれば、そこはまたアンケートを実施するとか、また他の方法があるかもしれませんけれども、そこはちゃんと声を聞いて何らかの形はとっていかなくてはいけないかなと思いますし、最終的なところ、長期総合計画で、旧竹田市は2から3校。各地域、荻、久住、直入は、小学校は1校ずつとしています。中学校は1学年に2クラスというところを謳っていますから、最終的にはそこに向かっていきますから、当然、今回名前が挙がっていないところも、いずれはそういう話になってくるのかなと思っています。どちらが先かということになるかと思いますが、いずれはという方向にいかなくてはいけないのかなとは思っています。

志賀教育長

よろしいでしょうか。その他ありませんか。はい、賀籠六委員。

賀籠六委員

今までの話の中で、編入の統合と対等の統合の違いを。たぶん自分たちもこの先進んでいく中で、いろいろ保護者に聞かれることもあるんですけど、この違いを具体的に、編入の場合は通常こういうことが考えられる、対等ならこういうふうな感じだという、その比較みたいなのがわかれば教えてください。

志賀教育長

教育総務課長。

後藤教育総務課長

編入というのは、例えば竹田小学校、宮城台小学校が竹田小学校に編入という形でありますので、竹田小学校自体は何も変わらず、児童が増えて、そこに通学をするというのが編入。何も変わらず宮城台小の子どもたちがそこに行く。対等というのは、一回解体をするので、学校名をどうしますか、校章はどうしますか、中学校だったら制服はどうしますか、校歌はどうしますかという、一つ一つのことをすべて作り直さないといけないのが対等です。双城中学と竹田中学が統合したときは対等でやりました。たまたま名前は竹田中学校となりましたけれども、制服やいろんなものはすべて新しくなって、そこから歴史がスタートすると。竹田小学校も、明治と岡本と竹田小が対等であったから、そこからまたスタートして、それぞれの歴史とか、地域のプライドというのは、ちゃんと継承はしていたんですけども、すべて新しくなって、たまたま名前が竹田小だったけれども、そこから歴史がまた始まって、すべてが新しくなって、その作業は、当然部会を作ってやらなくてはいけない、制服決めるにしても、何回も集まってやる。校章を決めるにしても、デザイン募集からやる。だからすべてが新しくなるということですね。

志賀教育長

対等というのは、ようするに新設校扱いです。竹田南部中学校は南生中学と祖峰中学の対等合併ですから、場所は南生中の位置になりましたが、新しく竹田南部中学校ができたということです。今、総務課長が言ったように、制服から校歌、校則、PTAの規約、すべてが変わります。そういうことでご理解ください。はい、賀籠六委員。

賀籠六委員	<p>前回の総合教育会議で話をした時に、例えば各地域の伝統的なものを、合併しても引き継いでいけるようにしていきたいという話だったので、てっきり対等的な合併なのかなと思ったのですが、今話を聞くとそうではないと。南部小に、もし菅生小の方が来られたら、南部小のやり方にのっとって、学校行事とか全てが進んでいくというふうに思ったのですが、そういう考えでよろしいですか。</p>
志賀教育長	<p>教育総務課長。</p>
後藤教育総務課長	<p>地域で今までやってきた活動とか歴史とか、そういったものは、例えば、新しい、例えば菅生小がやってきたことが南部小学校に行ったからといって、なくなるということではないと、そういうところのサポート、また先ほど言いました菅生小におけるプライドというものがあると思うので、その新しいプライドというものを南部小学校で作ってあげれば、例え編入であっても、そういうところはしっかり守っていかないと考えていますから、編入したから菅生のことはすべて無くなるとか、そういうことではないので、そういう地域で今までしてきたことを吸収できるように、そういう学校づくりというのができれば一番いいかなと思っていますし、そうでなければいけないのかなとは思っています。</p>
志賀教育長	<p>学校教育課長。</p>
渡邊学校教育課長	<p>今おっしゃられた各地域の伝統的なものというのが、教育活動であれば、それは引き継ぐことが十分可能だというふうに思います。すべての学年が同時に実施することは難しいかもしれませんが、例えば、虫送りであれば、高学年の6年生がするのか、菅生の禰疑野神楽を学ぼうとかいう活動は3年生でやってみようとか、それぞれの学年で教育課程を組むことができますので、しっかりと継承していくことは可能かと思えます。以上です。</p>
志賀教育長	<p>よろしいでしょうか。その他ありますか。では次に移ります。本日の審議事項ありませんので報告事項に移ります。報告第9号、竹田市教育費予算6月補正についてです。最初に、課ごとに説明をお願いしまして、全部の説明が終わってから質疑を受けたいと思います。最初に教育総務課長。</p>
後藤教育総務課長	<p>はい。それでは、6月28日議会最終日において承認された補正予算についてです。教育総務課からご説明いたします。歳入については、教育費国庫補助金で歳入補正額は、150万円です。内容は幼稚園費の中でICT化による公立幼稚園業務改善等支援事業補助金です。次に歳出です。教育委員会事務局費について、ICT支援員に関する予算です。当初予算の中で直接雇用をとっていましたが、雇用形態を変えての予算です。業者に委託しての支援員を確保するという意味で報酬等を減額して委託費に切り替えています。また、宮城台小学校の普通財産へ引き継ぐ準備として、ごみ等の処理を行うための委託費です。次に小学校管理諸費です。GIGAスクールを行うにあたりいろいろな資料を使用するうえで著作権が発生するので、その使用料予算。新型コロナウイルス感染症対策で手洗いの自動水栓化の委託費、工事請負費を計上しています。また、白丹小にて、屋内の消火栓設備に改修が必要になったための工事請負費です。支援センター分ですが、各学校に空調を設置しましたが、燃料費が令和2年度一年使用して所要</p>

額が概ね実績額が把握できましたので、その分を増額しています。中学校管理諸費です。使用料については、先ほどの小学校費の著作権の考え方と同様でございます。支援センター費の燃料費についても先ほどの小学校費の考え方と同様でございます。また、中学校においてもトイレの自動水栓化の整備をします。次に幼稚園費です。公立幼稚園業務改善支援事業を取り組む中で、事務処理等の園務の効率化をはじめ、オンラインによる教員研修や保育参観、保育動画の配信など「新たな日常」に対応するための ICT 環境整備を支援するために必要な費用予算を承認されました。以上です。

志賀教育長

渡辺学校教育課長。

渡辺学校教育課長

はい。3 ページをご覧ください。学校教育課です。小学校教育振興諸費、中学校教育振興諸費ともに、複数校兼務するため、校務用のノートパソコンが貸与されていない 10 名の教職員に対して、複数の学校を行き来し効率的に研修や授業を行うため、環境を整えるためのモバイル利用 SIM カードの予算を計上して、56 万 4000 円を増額しております。以上です。

志賀教育長

はい。工藤生涯学習課長。

工藤生涯学習課長

はい。4 ページをご覧ください。歳出の上から社会教育費で竹田市 P T A 連合会育成補助金 1 3 万円、竹田市婦人団体連合会補助金 1 0 万円、竹田市文化連盟補助金 3 0 万円ということで、新市長として査定をいただいた政策的経費に対する補助金です。以下の補助金も同等の内容です。次に、青少年健全育成事業費で、岡城旗争奪少年剣道大会補助金 9 万円、次に成人式実施事業で成人式実行委員会補助金 2 万 2 千円。現在、成人式については、本年 1 月 1 0 日分を 8 月 1 4 日に延期して実施するもので、対象者は平成 1 2 年 4 月 2 日から平成 1 3 年 4 月 1 日生まれの方です。大分県の新型コロナウイルス感染症に対する対応方針等を参考に、式典については短時間で終了できるよう工夫をして実施いたします。次に人権・同和教育諸費でございます。会計年度任用職員の期末手当と費用弁償の組み替えでございます。人権の担当の社会教育指導員の先生が昨年末に 1 名、お辞めになりました。そのあと、いろいろ人を探しましたが、なかなか週 3 日おいでいただく方が見つかることができなくて、現在、週 1 日勤務の方を、お雇いしております。費用弁償というのが、いわゆる通勤手当でございますけど、計算したところ、5 万ほど必要になり、期末手当の必要がなくなりましたので、その分を組み替えたところでございます。次に人権学習学級事業費でございます。これについては、通常の講師謝礼 4 万 5 千円を啓発用の映画のフィルム借上料として、組み替えて、啓発事業を行うものであります。次に集会所教養講座実施事業で、月 1 回集会所の教養講座ということで、生け花教室を行っております。これについては、20 年以上経っておりますけど、講師の先生については、謝金はお渡ししているんですが、その車代については、一切支払っておりませんでした。せめて月 1 回のご自宅から会場までの車代、1 2 回分を合わせて 1 万円はお支払いしなければ失礼だろうということで、計上しております。次に公民館運営事業費の久住分につきましては、テレビ 4 台分の廃棄物のリサイクル手数料 1 万 4 千円を上げております。あと、YOU 花の会補助金 1 0 0 万円、久住文化協会補助金 6 万円ということで上げております。次に佐藤義美記念館運営管理費で、竹田童謡祭実行委員会補助金 6 4 万 5 千円。

保健体育総務諸費で、県内一周駅伝大会補助金90万円、ドリームズゲーム in おぎ補助金20万円ということで、上げております。ただ、ドリームズゲーム in おぎについては、6月11日に開催された実行委員会での協議により、新型コロナウイルス感染症対策として中止の決定をしております。以上でございます。

志賀教育長 はい。古田まちづくり文化財課長。

古田まちづくり文化財課長 はい。5ページをお願いいたします。歳入につきましては、商工費、県の補助金200万円が確定いたしました。これについては、すでに予算化されております岡城の伐採の費用の中に充当するものでございます。歳出につきましては、まず文化財保存事業諸費ですが、従前からございました田能村竹田顕彰会と大学地域連携運営協議会に対する補助金を計上いたしました。また、文化財管理センターですが、今年で開館から10年を迎えますので、別府大学の先生方による講義等を行うように、講師謝金等を計上しております。最後に岡城管理事業費は、公式ホームページのドメイン使用料を計上しております。合計31万4000円の増額ということで、上程予算通りの議決ということになっております。以上です。

志賀教育長 佐藤歴史文化館長。

佐藤歴史文化館長 はい。6ページをご覧ください。歳出につきまして、歴史文化館運営管理費に鳩除け設置工事の費用として115万5000円を増額させていただきました。以上です。

志賀教育長 後藤給食調理場長。

後藤学校給食共同調理場長 最後、7ページでございます。今回、歳入については、当初から要求がございません。次に歳出の方ですが、当初3調理場の給食配送車のドライブレコーダー設置予算計7台分としてそれぞれ要求をしておりましたが、査定の段階で0査定となり、久住調理場の給水管補修工事修繕費924千円のみとなりました。以上でございます。

志賀教育長 質疑等ありませんか。はい、ないようでしたら、報告第9号を承認してよろしいですか。承認されました。次に、協議事項ありませんので、連絡事項をお願いします。教育総務課長。

後藤教育総務課長 はい。連絡事項です。まずは(1)の7月幼・小・中行事予定表です。2ページをご覧ください。7月1日図書館祭り久住小、2日救急救命講習会が豊岡小で、祖峰っ子フェスティバルが祖峰小で、人権講習会が久住小で行われます。3日ミュージックフェスタが竹田中で、5日避難訓練を都野中で、6日避難訓練を竹田中、全校ボランティアを緑ヶ丘中で、いのちの授業を久住中2年で、7日調理実習を都野中で、七夕集会を竹田幼、南部幼、直入幼稚園で開かれます。9日スマホ・携帯安全教室・人権教室を直入中で、13日防災学習GT招聘、竹田南部中で、15日親子で聞く人権後援会を久住中で、避難訓練を直入幼稚園で、16日夕涼み会を竹田幼稚園で、20日、親子レクリエーション荻小6年で、そしてこの

日から夏季休暇になります、以上です。次に（２）の６月教育委員会関係日程（予定）です。３ページです。７月１日、竹田市議会議員全員協議会、２日、声楽コンクール運営諮問委員会、令和３年度嚶鳴協議会教育長情報交換会（オンライン）、今後の学校のあり方説明会（城原小ＰＴＡ役員）、５日、教育委員会第７回定例会、６日、第６回校長・所長会議、今後の学校のあり方説明会（久住中、都野中ＰＴＡ役員）、７日今後の学校のあり方説明会（白丹小保護者全体）、８日直入幼稚園保護者説明会、９日学校支援センター運営協議会、１３日Ｂ＆Ｇ財団２０２１年度修繕助成「決定書授与式」、１４日社会教育委員会、１５日第１回学校給食運営審議会、１６日今後の学校のあり方説明会（直入中保護者全体）、２１日大分県中学校総合体育大会～２９日（木）まで、今後の学校のあり方説明会（菅生小保護者全体）、２７日定例課長会議、３０日要保護児童対策地域協議会代表者・実務者合同会議、竹田市健康づくり推進協議会です。（３）今後の主な予定です。①教育委員会第８回定例会、８月５日（水）場所は市役所本庁３階会議室５、②教育委員会第９回定例会本庁会議室５で行います。以上です。

志賀教育長

質疑等ありませんか。では、その他、各課からお願いします。教育総務課長から。

後藤教育総務課長

はい。教育長報告の中でもありましたけれども、今後の学校のあり方について今、各学校を回っております。先ほど、今後の予定の中でもありましたが、２回目を行う所もございます。教育委員会としては、平成２８年の長期総合教育計画の中であった学校配置の在り方、そして今年の４月から新たに長期計画が見直された中で、その在り方について平成２８年からの踏襲をしているというところで、話し合いをしてきました。平成３０年のアンケート、令和２年のアンケート、そして今年の１月から２月の各学校への説明会と、そして昨年１１月に前市長、そして市長部局と話をし、どういった方向に行くか、そしてまた２月の総合教育会議の中では、その方向性については新しい市長の下での政策であるから、そこでまた決めていかなければならないということを受けて、新しい市長の下、確認をしながら、そして総合教育会議のなかでも協議をしてきました。決して急な話でしたわけではないということをご理解いただきながら、それをまた各学校のＰＴＡの役員さん、ＰＴＡの皆さん、そして地域の皆さんに理解をしていただきながらの説明会に臨みたいと考えています。基本は、まず第一は子どもの将来のためを思う、その部分を重点的において説明をしていきたいと、子供の将来を考えたいんだというスタンス、そういった教育環境を整備したいんだというところを、ちゃんと説明をしてご理解をいただくように臨んでいきたいと思っています。そういった説明の中で、保護者であったり、地域の方、いろいろご意見等をいただくだらうと思いますけど、教育委員会としてはそういった丁寧な段階、ステップを踏みながら行きたいということ、教育委員の皆様方も説明をしていただければというふうに思っています。また、直入幼稚園の件につきましても、同じであります。一生懸命説明をして、ご理解をいただきたいというふうに思っています。そういったものを何回も足を運んでいきたいというふうに思っていますから、ご理解、ご協力をよろしくをお願いをしたいと思います。以上です。

志賀教育長

渡辺学校教育課長。

渡邊学校教育課長

はい。学校教育課から2点お願いします。1点は、委員の皆様の机上にお配りしております。令和3年度学校運営協議会の開催日程をご覧ください。各学校、年に3回、学校運営協議会を開催しております。CSと呼ばれるもので、学校運営協議会委員の皆様とともに、地域の方々、PTAの役員の方々ともに、学校の課題を熟議しより良い学校運営に生かしていくという会議でございます。第2回目は、夏、8月に開催され、特に学力向上会議を兼ねておりますので、各学校の課題、学力に関する課題が出され、そこにご意見をいただくものがございます。委員の皆様には、了解をとらずに先に名前を入れておりますが、ご都合が悪ければ、私の方にお知らせください。日程の変更はなりません、違う学校に行っていただけの場合もございますので、ご相談いただければと思います。どうぞご忌憚のないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いします。2点目です。その学力向上会議でメインとして話されるのは、大分県の学力定着実態調査での内容でございます。本日、速報が私の方に届きましたので、各学校には、来週以降になりますが、その速報をお伝えできればと思います。ペーパーの準備はございませんが、よろしいでしょうか。実は小学校5年生と中学2年生、4月の20日に実施した県の学力調査でございます。2年前、大変厳しい状況で、議会でのお叱りを受けたところでございますが、その2年前は小学校5年生、国語、算数、理科、3教科すべてにおいて、偏差値50に届きませんでした。昨年度はコロナ禍で、希望する市町のみ、県下で半数の市町が実施をして、竹田市も臨みましたが、公表はなかったんですが、昨年度は3教科のうち、算数だけが、何とか偏差値50を超えたような状況でございました。今年度、令和3年度4月の実施では、国、算、理ともに、3教科すべてで、偏差値50を超えることができました。教育委員の皆様にも心配をしていただきましたが、何とか、挽回することができました。特に国語においては、52.2と、偏差値50をかなり上回ったところでございます。引き続き小学校頑張っていきたいと思っております。中学2年は、昨年度、国語と社会のみが、偏差値50を超えておりました。残り数、理、英については、50に届きませんでした。今年度は、国、社、数、理において、偏差値50を上回ることができました。実は2年前、令和元年度においても同じような結果で4教科でしたけれども、特に今年度は国語科において、53.2と大変高く、コラム学習等の取り組みの成果も出てきたかと思っております。英語科については、3年連続して、偏差値50に届かないという苦しく厳しい結果ですので、しっかりと策を練って対応していきたいと考えます。以上、速報でした。

志賀教育長

続いて工藤生涯学習課長。

工藤生涯学習課長

はい。先ほどの7月、教育委員会関係日程予定表ということで、3ページをご覧ください。その7月2日のところで、教育長にも出席いただきましたが、滝廉太郎記念の高等学校声楽コンクールの運営諮問委員会を開催いたしました。県下の音楽に関する先生方にお集まりいただきまして、今回の声楽コンクールの運営に関するご意見を頂戴したところでございます。今のところ、10月の15、16、17の3日間を予定しております。昨年は中止でございました。また8月の初旬に再度諮問委員会を行いまして、大分県の新型コロナウイルス感染症に対する対応方針等を参考にしながら、どうしても全国からお集まりいただきますので、その前段に、ここに来るまでに2週間ほど経過観察を、健康チェックをしていただくとか、こちらについても当日朝の検温等をしていただい

て、大会で臨むとか、あと参加者の制限もですね、なかなか、これまでの経過として、満杯になることはございませんけど、人数を制限する中で実施をしていきたいという形で思っております。それともう一つ、7月13日のところに、B&G財団2021修繕助成決定書授与式とございます。これにつきましては、B&Gの体育館、直入にございます。そこの体育館の照明をLED化するというので、ざっくりの予算ですが、900万ほどかかります。その8割補助をB&Gからいただきまして、700万ほどいただきます。それによりまして、LED化できるということでございます。決定書授与ということで、そこの財団の方から来ていただきまして、竹田市に修繕費を交付するよというような会でございます。直入の体育館については、LED照明が付いて明るくなるということでご理解いただければと思います。以上です。

志賀教育長

古田まちづくり文化財課長。

古田まちづくり文化財課長

はい。先月新聞に取り上げていただきました大学地域連携運営協議会のことをご報告いたします。まちづくり文化財課では、旧双城中学校跡を使った文化財管理センターを基点にして、大学地域連携運営協議会で組織しております。麻生一雄さんが会長で、宮城や城原の分館長ですとか、地域の方が入られております。3年間かけて、岡藩の財政の一翼を担ったという小判大豆、いわゆる岡大豆の研究等を、別府大学と連携してやって参りました。一応区切りがついたところなんですけれども、今年度になって、もうすでに2回、協議会を行った中で、地域連携運営協議会の中に、下部組織とか内部組織として、双城岡大豆復興プロジェクトという、チームを立ち上げ、ここまでやってきたことを、参考にしながら、製品化等に取り組みたらいいなという話になっております。

地域おこし協力隊 斎藤さん等の協力もいただき、その内容が紙面に取り上げていただいたところなんですけれども、今のところですね、ジーンバンクとの調整や、それから量産化についてなど、なかなか難がありますので、どういうふうになるとは言えませんが、地域連携という意味も含みまして、地域と、別大と、そして周辺の子供たちと、いろんなところと関わりながらですね、大事に育てていけるといいなと思っております。6月17日に、城原神社で、今年の作付が上手くいきますようにと神事を行いました。ちょうど合同新聞さんがいらっしやって、取り上げてくださったというような流れです。

先ほど申し上げたように管理センター10年で、一つの区切りとしてですね、今年度の、別府大学の先生方も含めて、報告会をしようというふうに思っております。岡大豆についても、遺伝子の分析等もしておりますので、この中でそういったところも含めたご報告をしたいというふうに思っております。以上です。

志賀教育長

佐藤歴史文化課長。

佐藤歴史文化館長

はい。歴史文化館では7月13日(火)まで、Japan Galleryとのコラボ企画展「I am here Vol.1 ～光源～」展を開催しております。コロナ禍ではありますが、市内の皆様をはじめ多くの方々に御来館いただいております。竹田を拠点に現代アートの第一線で活躍している竹工芸の中臣一さん、彫刻の森貴也さん、染色の前田亮二さんの作品を、多くの皆様にご覧いただければと思っております。

ります。中臣さんと森さんは、7月10日（土）から大分県立美術館で開催される「サンリオ展」において、サンリオキャラクターとのコラボ作品を出品する国内新進気鋭作家にも選ばれています。続いて、7月17日（土）からは、企画展「草刈樵谷～豊後南画、最後の巨匠～1」展を開催します。生誕130年を迎える今年、草刈樵谷さんの代表作を2回に分けてご覧いただくように準備を進めているところです。市民をはじめ多くの皆様にご覧いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

志賀教育長

後藤給食調理所長。

後藤学校給食共同調理場長

特にございません。

志賀教育長

では図書館について、教育総務課長。

後藤教育総務課長

特にございません。

志賀教育長

意見、質問等はありませんか。はい。それでは最後に、教育委員から、意見感想等伺います。まず、賀籠六委員お願いします。

賀籠六委員

はい。先日、久住小学校のPTAに保護者として参加しました。その中で、保護者の方が自分の子どもが使っているタブレットを使って、子どもたちがどうしているかという説明を学校から受けて、そして実際にそのタブレットを使って、子どもの1学期の成長の様子、家でこういうふうな変化がありましたというようなことを意見を出ささせていただきました。子どもが普段している内容も見せてもらいましたが、子どもたちは楽しみながら活用しているようにとらえました。まだまだ今後、機械の能力的にいろいろなことができると思うので、その辺の有効活用というのをどんどんしていただきたいなと思います。また、学校のあり方説明会について、教育委員として今後、なんらかの説明会に同席させていただけるような機会があるのかお聞きしたいのと、もう1点、提案というか自分の意見ですが、編入合併、制服は変えられないということですが、竹田市統一型として、今後LGBTQの件とかもありますので何か新しい制服、女性がスラックスを選べるとか、そういうふうに対応できるような、他市でしていることもありますので、新しい制服、竹田市統一型というのを検討もしていただけないかなと思います。以上です。

志賀教育長

最後にまとめて、お答えできる質問についてはお答えしたいと思います。続いて甲高委員。

甲高委員

はい。先ほど教育総務課長から説明いただいておりますが、学校のあり方説明会ということで、私たちのところにも、やはり様々な意見が寄せられております。私たちも先ほど課長が話されておりますが、丁寧に説明しますと、皆さん、そういうことだったのかというふうに言うてくださることが多いです。今後も、ご苦労かと思いますが、丁寧に説明していただければというふうに思います。以上です。

志賀教育長

はい、では佐藤委員。

佐藤委員

私も、学校のあり方についてなんですけど、萩はまだ人数がいるので、保護者、地域とも遠い話のように感じているんですが、あの報道を受けて、具体的に年度が令和5年、令和6年度というふうに出たので、あの報道を受けて萩も少しザワザワしてる感じなんです。いろんな意見を伺うんですが、竹田市全体のアンケートは平成30年度に一度行われたということだったんですが、今まではアンケートだったのが、あの報道によって令和5年度を目指す6年度を目指すという年度を示されたことで、保護者なりに地域なりに考えることがある。今の時点では対象ではない学校に対して、アンケートを今後とるようなことがあるとするならば、長教審で示されている、中学校がこういう体制になります、小学校がこういう体制になりますということを一且示した上で、保護者にアンケートを取った方が、保護者が具体的にそのアンケートに対して答えられるのではないかなと思います。今後そういうアンケートを取ることがあれば、そういう具体的な方向性を示すアンケートであって欲しいなと思います。

それと、感想になるのですが、7月2日に萩小学校のPTAがあったので私も保護者にまぎって、学校の様子を、子供たちの様子を見させてもらいました。低学年で、iPadを使って実際に授業しているのを見るのが初めてだったのですが、支援の先生が1人入られている教室では、その支援の先生と担任の先生と2人で子どもを見ることができるとは、担任の先生1人だけのクラスでは、少し子どもが使えなくて止まったときに、その授業が止まってしまっていたので、今から慣れて徐々にスムーズに活用していけたらいいなという感想を持ちました。そのPTAの後に、保護者の方が1人1台ずつ実際にiPadを持って、業者の方から操作方法の説明を受けていました。夏休みに、オフラインで夏休みの課題をするので、保護者の方も操作方法を聞いて、自宅での管理に努めてくださいということでした。その時に校長先生から、落としたり割ったりして破損することもあるが、お茶をこぼす、水をこぼす、かばんの中で水筒の蓋が締まってなくて水に濡れるという破損が子供の間では一番心配です。ので気をつけてくださいという注意事項がありました。iPadをもし破損した場合に、代替のiPadはすぐに準備ができるのか。それも何台かは学校に確保されているものなのかということをお聞きしたいと思います。以上です。

志賀教育長

はい。吉野委員。

吉野委員

はい。3点ほど、あります。今後の学校のあり方の説明会についてです。一つの学校に何度も足を運ぶつもりだと仰ってましたが、保護者対象に何回も説明会をした後に、必要に応じて地域に説明会をするということになるのであれば、その途中から第2回3回のうちに、保護者以外の方も入ってよければ、一緒に済めばどうかなと思いました。というのは直入幼稚園についてもですが、今のところ在園児の家庭に対しての説明会が計画されているということですが、必要だという声が上がれば地域住民にも説明をするというお話があったようにも思います。その後、どんどん後になるというよりは、在園児の保護者やその小中学校であれば、現保護者あての説明会に、途中からでも参加者の枠を広げられないかということも少し思いました。それと、統合が実際進んでいけば、保護者の立場からすればその制服ですとかバスや部活などのことが気にな

ってくるかと思うんですけども。私が少し気になっているのは、前日も申し上げましたが、大規模校っていうほどじゃないかもしれないですけど、今まで小規模だからできていたことが、規模が大きくなってでもできるようにするには、その先生の配置をゆとりを持ってしていただけたらなど。いろんな生徒に対応できるように、生徒のその居場所があちこちにあるような学校ができたらいいいのかなと思っています。どうしてそう思ったかという、先日直入中学校の方で学校運営協議会第1回があったので行かしていただいたんですが、授業を見ていたら、授業者以外の先生が廊下で、普段からよく声かけをしてくれている。それはその授業の間ずっと座っていられない子がトイレや何やで廊下に出てくると。授業を中断して、保健室に行くにしてもトイレに行くにしても、見かけたら声をかける。ちょっと息抜きすれば戻れるようなものであれば、じゃあ帰ろうかと言って一緒に声をかけて授業教室に戻すということがとても大事な役割だということをおっしゃっていました。その先生、次に授業が控えているんですけども。そういうことを地域学校協働本部運営委員会とか、新しく立ち上げるような組織とか地域の方にもお願いできたらというふうに先生がおっしゃっていて、それはなるほど私たちもそういうことであればぜひ協力したいというふうに申し上げました。地域との連携というの、今のところその会議があった日もまだその新聞にも出てなかった状態だから、今この規模の学校で地域の方とともに何ができていくことを考えていた段階での意見だったので、これが大きく竹田中学校になった時に、直入から保護者が協力していく事を考えると、またその果たせる役割も変わってくるのかなと少し思いました。まずその地域の方よりも先生が、先生の目がたくさんあった方がいいんじゃないかというふうに感じました。最後ですけど、教育を考える会議の時に、一つ議題に上がって、大変議論が膨らんだのですが、気になることのひとつとして子どもたちの言葉遣いが大変乱れているという話でした。前に賀籠六さんもおっしゃっていたことがあったと思うので、きっと直入に限ったことじゃないのかなと思いますが。数年前までは、先輩から後輩に自然と受け継がれていたような、礼儀ですとかそういうものがその部活の中でもちょっと伝わりにくくなっていたり、先生に対しての言葉遣いや態度だったら先生が注意することになると思いますが、子供同士で先輩後輩の中で非常にわきまえてない、その場にそぐわない言葉遣い呼びかけが頻繁に耳につくと。大人からするとそれは、すごく気になるという話題でした。別の次元で子どもの立場に立って考えてみたら、1日中そういう学校にいと、気になるだけじゃなくて、そのことが回り回って授業態度であるとか、思いやりが欠けてくるところと、何となくとげとげした雰囲気繋がっていくんじゃないかという感じを受けました。生活トップテンの中にも、時と場合に応じた言葉使いみたいなことを書いてあると思いますが、中学生にもなれば、時と場合に応じて使い分けなさいよって言えばわかってくれそうなものですけど、そうではないと。だからと言って、その時はこれはいいけど教室じゃ駄目だよとか、自由時間はこれはいいけど教室は駄目だとか、そういう細かいルールをつくれればいいということでもないので、自分たちに考えさせることが必要だという話で終わりました。それは竹田市内で例えば9時以降ネットに繋がることをしないとか、そういう申し合わせがあると思うんですけど、あれぐらいのレベルで、どの大人が見ても注意できるようにしていったほうがいいんじゃないかなと感じたところです。以上です。

志賀教育長

では、幾つか整理しますけど、まず学校のあり方についてです。賀籠六委員からは、教育委員として同席することは可能かということ。吉野委員から、幼稚園を含めて、地域への説明の際、参加者の枠を広げることについて。佐藤委員から、非対象校、特に荻地区についてですが、何年度にこうなるということを示した上でアンケートしてはどうかということ。吉野委員から、小規模校だからこその先生配置を、ということでした。そのほかに、制服について、特化すれば、LGBTへの対応等含めた検討について。それからタブレットについては、担任が1人だけで指導を行うのでは、子どもたちの学習がちょっと滞るのではないかということ。それと、破損した場合どうなるのかということ。もう一つ、子どもの言葉遣いについて。その他ありましたが、担当の課長から、答えてください。教育総務課長。

後藤教育総務課長

まず、学校のあり方について、いくつかご質問がございましたのでお答えをしたいと思います。まず賀籠六委員から、委員として出席したいというご意見がありました。流れといたしましては、PTA役員の方に説明をして、それを、全体のPTAの皆さんに、こういう話があったんだよということを投げかけてくださいというふうに、今言っています。最初から全体ですということが決まっているところもありますが、その次の段階で、また教育委員会として、事務局が入っていくところをしていきたいなと思っています。その次の段階として、ある程度の話ができれば、今度地域の皆さんに入っていただくと。ただ、地域の皆さんといっても、皆さんどうぞ来てくださいということだったら、なかなかその話し合いというのがうまくできませんから、過去の例から見ても自治会長の皆さんや、そこが多くなりすぎれば、分団長というんですかね、そういう方が理事をされているところもありますので、そういう方に来ていただくと、自治会長会長さんは来ていただくと。その中にPTAの役員の方も入っていただきさらに、学校長、教頭も入っていただくと。その時に立ち位置はちょっとそこはどうするか決めていませんけど、教育委員、そして地元の議員という方に参加していただいて、見届けしていただけたらというふうに思っています。そこで、検討委員会という組織を作った方がいいよということになれば、検討委員会という組織を作って、その中で統合について話をして、方向性を定めていただくというふうにしたいと。間延びしないように、事務局として調整をしていきたいというふうに思っています。そういう時に教育委員の皆さんにも声掛けをさせていただきたいと思っています。吉野委員から同じような意見でありましたけれど、地域の声というのはやはり聴いていきたいと思っています。地域の声という中でも、子どもたちは地域に育てられて、その保護者も地域に育てられているので、地域の声というのは、大事にしたいと、先ほど言いましたように、検討委員会であるのか、どういった形であるのか分かりませんが、そういう場を作りたいと思っています。ある程度保護者の中で話がまとまらないと、そこは難しいのかなと思っています。最終的には、地域の方、統合に対して意見がある、存続に対しての意見があると思います。ただ、学校の中で子どもがどうなのかというところを、私たちが丁寧に説明をして、少人数でできる場所もありますと、ただ、少人数だからできないこともあるんだよというところも、しっかり説明をして、統合をしていく、ある程度の集団規模が必要というところを、何度も何度も、そこは説明をさせていただきたいと思っています。それは先ほど言いましたように、長期計画の中で、諮問をして答申を受けた、そこで作り上げ策定をした計画ですので、そこ

はしっかりと進めていきたいと思ひます。その説明を丁寧にする場を、ちゃんと設けていきたいなと思ひています。幼稚園については、まず今年度の保護者について説明をさせてください。その次に、平成29年の時もそうだったと思ひますが、自治会長、地元議員、教育委員、分団長、そしてこの先幼稚園に入るであろう保護者の方に、個別に案内を出して、説明会をさせていただきたいと思ひます。最短で7月8日が、在園の保護者の説明会を予定していますので、その次もあまり期間を開けないで、説明をさせていただきたいと。でないと、結局今年度のスケジュールというのが出来なくなってしまうので、無責任な状態にならないように、そこはスピード感をもって進めさせていただきたいと思ひています。それから、アンケートの件です。今回対象でなかったところのアンケートをどうするのかということですが、声が上がれば当然アンケートというのも考えなくてはと思ひます。アンケートをするというのは、保護者の方の声を聞く一つの方法でありますから、そこで声が上がってくれば、アンケートをするという方向はいいのかなと思ひます。平成30年に実施し時間が経っていますから、意向が変わってきているのであれば、そういう声があれば実施をしていきたいと思ひますし、今回令和2年度で実施したときについても、長期計画の中の話であったり、メリット、デメリットというのを書き加えて、そしてアンケートを行っていますので、その辺のところを載せながら、統合は希望しますか、存続を希望しますかというところをですね、そういうための資料はしっかりと付けて、アンケートをする場合は行っていきたいというふうに思ひています。次にタブレットの件ですけれども、タブレットは、今PTAの中で保護者の方も使って、活用の今現在の状況を見たということですが、今後も教員の中でも研修をしながら、更にもっと良い活用の方法というのが当然あると思ひますし、どんどん変わってくると思ひます。竹田の場合は、65型の大型提示装置等、アップルTVという活用ハードウェアというのがあります。その活用ハードウェアというのが、結構利用活用の仕方が良くてもうすぐに授業でできる、先生たちが資料を先にそこに、教材とかを入れて、すぐに授業でできるというようなことがありますので、そういったことをどんどんしているところもあります。ですからそれが活用できるように、指導もしっかり行っていきたいというふうに思ひています。教室によっては、授業が止まってしまうということが今あるかもしれませんが、そこは検証しながらスムーズに授業ができるような形のGIGAスクールに繋いでいければというふうに思ひています。それと代替機の問題ですが、代替機については、予備があるかといったら、そう多くはないけどあります。ただ、そう多くはないので、子どもたちに使い方をしっかりと説明をしながら、どうしても使えないということであればその代替機を与えていきたいと思ひます。必要な時は予備を利用しながら、子どもたちが使えないということがないようにしたいなと思ひています。

志賀教育長

学校教育課長。

渡邊学校教育課長

はい。私の方から2点お願いします。1点は教員の配置についてです。教員の配当基準は、児童生徒数ではなくて、学級数で決まります。例えば、中学校であれば、1学年1クラスずつ、3クラスの学校であれば、教員は、校長以外は7名というふうに決まっております。それが1学年2クラスに増えて6学級となれば、10名というふうに増えるわけでございます。それに特別支援学級が増えていけば、というようなこともございます。また、まだ決まってはおりません

が、例えば令和6年に3校が竹田中と統合した場合には、その中学3年生は、80名を超しますので、1学年3学級というような規模にもなります。その時はまたそれで学級数が増えておりますので、教員が増えるというようなシステムになっております。私は2003年に竹田中と双城中の統合を経験しております。その時に中学3年の学年長でしたが、子どもたち60数名が竹田中、20数名が双城中でした。20数名の双城中は大変保護者の方も不安が多かったと思いますが、子どもたちの力というのは、本当にすごくて、統合してその日から一緒に切磋琢磨しながら、いろんな活動を頑張っていました。ちなみに、生徒会長は、双城中の男子だったかと思います。大変活気があって、本当に、部活動、運動面だけでなく、学力も競い合ってくれたと感じております。それが、竹田市で最後の3クラスだというふうに自分は思って、今も交流はありますけれども、もしかすると1学年3クラスという、活気のある学年もできるかもしれない。また、今は先生が声をかけている場合が多いかもしれませんが、子どもたち同士で声をかけて、より良い方向に進んでいこうとする力が、中学生、小学生もありますので、それおかしんじゃないかというのは、やはり声をあげて、いい方向に引っ張っていく力を期待していきたいと思います。また、前回もお話に出ていました、支援の本当に必要な子供さんにとっては、特別支援教育支援員をきちんと配置していきたいと思いますし、竹田中には今、支援学級がございませんが、その支援学級の配置も早急に県の方に要求をしていきたいと思っております。教員の配置については以上です。なお、子供たちの言葉遣いのことを心配されておりましたが、もしかすると、人数が本当に少なくなって、中学校に入ったら、その先輩後輩の先輩ができるという緊張感があって、毎日生活している生徒たちも多い中で、人数が少なくて、なあなあになっている場合も、もしかしたらあるかもしれません。そこは部活だけじゃなく、生徒会活動や普段の生活からきちんとした、年上に対する言葉遣い等を、先ほど委員もおっしゃってましたとおりしっかり自分たちで考えて、より良い方向を目指して行ってほしいと思います。補足ですが、教員の配置ですが、統合前1年間と統合後2年間は、国の予算で教員の加配が付きまします。それで支援が必要な生徒についても、しっかりサポートをしていくつもりでございます。以上です。

志賀教育長

はい。制服についてですが、小学校はもちろん制服がありませんが、体操服の決まりがある小学校も多分ないと思います。白丹小学校は全員一緒に体操服を着ていますが、この体操服にしなさいという指定はありません。保護者の方が同一の体操服を買ってくれていますが、あれじゃないといけないという決まりはありません。他の小学校も運動会を見に行くと、それぞれのTシャツ着ているようですから、特にはないのではないかなというふうに思います。それから中学校の制服ですが、例えば統合になれば新入生はもちろん入学した学校の制服です。竹田中男子の制服は他校とちょっと違います。女子は当然違います。竹田南部中では、統合したときが2年か3年生であれば祖峰中の制服でいいということでした。買いかえるときがくれば、竹田南部の制服を買いたしようという措置でしたから、金銭的な負担はできるだけかけないようにできると思います。それからLGBTに対する配慮です。昔、自分たちの頃の話ですが、久住中の場合、冬場女子はみんなズボンでした。寒いからだだと思います。その校則があったかどうか全く記憶にありませんが、多分その決まりがあるなら、今も生きているのではないかと思っています。そういったことも、これから議論

していかなければならないことであると思います。もう一つ言うと竹田市の場合、非常に校則の縛りがゆるく、例えば、大分市では靴は指定の白とか、バッグも全部指定のバッグという学校は結構あります。そういったものは、竹田市では残っていません。では、今担当課長から、それぞれ回答ありましたが、それに対してさらに質疑ありますでしょうか。ないようでしたら、これで定例会を閉会します。

ありがとうございました。

[閉会時刻:午後4時15分]